



Title	認知症施設入所者の徘徊行動測定に関する研究
Author(s)	グライナー, 智恵子
Citation	大阪大学, 2007, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/47408
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	ぐらいなあ ちえこ グライナー 智恵子
博士の専攻分野の名称	博 士（看護学）
学 位 記 番 号	第 2 1 0 3 0 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 19 年 3 月 23 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 医学系研究科保健学専攻
学 位 論 文 名	認知症施設入所者の徘徊行動測定に関する研究
論 文 審 査 委 員	（主査） 教 授 牧本 清子 （副査） 教 授 早川 和生 教 授 小笠原知枝

論 文 内 容 の 要 旨

研究の背景

認知症の人々には、見当識障害などの中核症状の他に、徘徊や興奮性といった周辺症状が現れる場合も少なくない。特に徘徊行動は介護者の介護負担や転倒・骨折のリスクがあることから、影響要因や徘徊パターンなどに対する研究が進められている。今後、徘徊行動の研究が更に発展していくためには、徘徊行動を適切に測定できる評価方法の開発が重要と考えられた。

第一研究

第一研究では、認知症入所者の行動パターンや歩行距離の変化を調査するために新たに開発された、Integrated Circuit Tag を用いた行動モニタリングシステムの有効性を検証した。このシステムでは、各観測地点で入所者が感知される頻度と各観測地点に入所者が滞在した滞在時間、1 日の累積歩行距離、行動パターンのグラフィカルな提示といったデータが得られる。このシステムにより、入所者の行動パターンの継続的なモニタリングや 1 週間を通しての入所者の歩行量の変化を測定することが可能となった。この新たなモニタリングシステムは、治療やケアの評価、徘徊行動影響要因を調査するための客観的指標として有効であり、今後の認知症者行動研究への様々な貢献が期待できる。

第二研究

第二研究では、施設に入所している認知症高齢者の徘徊行動を測定する尺度（Algase Wandering Scale Version2 : AWS-V2）の日本語版を作成し、その信頼性と妥当性を検証した。18 名のスタッフから、12 名の認知症高齢者それぞれに対する質問紙の回答を得た。評定者間信頼性としてスタッフ間の一致率を算出した結果、完全一致率、2 段階一致率共に高かった。再テスト法による評定者内信頼性では、相関係数は .81 と高い値を示した。次に、第一研究で使用したモニタリングシステムを活用し、基準関連妥当性を検討した結果、下位尺度の各得点と一日平均歩行距離の間には明らかな関連は認められなかった。以上より、AWS-V2 日本語版は高い信頼性を有しているものの、妥当性については更に検証していく必要があることが示唆された。また、欠損値の多い項目に関しては、文章表現の工夫や回答者選定の必要性が示唆された。

総括

本論文では、施設に入所する認知症高齢者の徘徊行動を把握するために、新たなモニタリングシステムの有効性の

検証と徘徊行動測定尺度の信頼性、妥当性の検証を実施した。モニタリングシステムでは、認知症高齢者の客観的で詳細な行動データを収集し分析することが可能となった。徘徊行動尺度では、高い信頼性を有していることが検証されたが、妥当性については更なる検証の必要性が示唆された。今後はこれらを活用して徘徊行動の影響要因や看護介入の効果を検証していくことが望まれる。

論文審査の結果の要旨

【博士学位論文内容の要旨】

グライナー智恵子の博士論文は、認知症高齢者の行動モニターのため、世界で初めて **Integrated Circuit (IC)** タグによるモニタリングシステムを使用し、認知症者の客観的徘徊行動測定方法を開発した。また、国内外で唯一の徘徊行動尺度である **Algate Wandering Scale Version2 (AWS-V2)** の日本語版を作成し、その信頼性と妥当性を検討したことが特色である。

IC タグを活用したモニタリングシステムにより、従来の直接観察やビデオ撮影といった方法で大きな制約であった時間や労力、長期間に亘る継続した行動測定が可能となった。更に、このシステムではリアルタイムな分析を行っていくことが可能である。本システムは、治療やケアの評価、徘徊行動影響要因を調査するための客観的指標として有効である。**AWS-V2** 日本語版の信頼性と妥当性の検証では、対象者数は少ないが評定者間信頼性、評定者内信頼性共に高い値を示した。しかし構成概念妥当性の検討が今後の課題である。

【審査結果の要旨】

本研究は、**Integrated Circuit (IC)** タグを活用した行動モニタリングシステムを使用し、認知症施設入所者の新たな徘徊行動測定方法を提示した。認知症施設入所者の徘徊行動を詳細に、客観的に測定する方法はこれまで示されておらず、本システムの活用は国内外においては初めての試みである。本システムは、認知症施設入所者の徘徊行動影響要因の検討や、看護介入の効果を客観的に評価するための貴重な測定方法である。更に、本研究では、国内外で唯一の徘徊行動尺度日本語版を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。今後更に構成概念妥当性を検証し活用していくことで、徘徊行動の国際比較を実施することが可能となる。

よって、本博士論文は大阪大学博士（看護学）の学位授与に値する。